別記第１０号様式（第７、第９関係）

**持続性の高い農業生産方式の導入に関する実施状況**

（認定：　　年度、目標：　　年度）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　月　日

氏　　名

１　持続性の高い農業生産方式の導入に関する状況

（１）農業経営の概況

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 水　　田 | 普　通　畑 | 樹　園　地 | そ　の　他 | 合　　計 |
| 経 営 面 積 | ａ | ａ | ａ | ａ | ａ |
| 労 働 力 | 農業従事者　男　　　人（うち専従者　　人）　　女　　　人（うち専従者　　人） | | | | |

注１　提出時における状況を記入する。

２　「経営面積」には，借入地面積及び受託地面積を含む。

（２）作物別生産方式導入状況

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | １年目 | ２年目 | ３年目 | ４年目 | 目標年度 (　　年度) |
| 生産方式導入作物 |  | a | a | a | a | a |
| a | a | a | a | a |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| 小 計 | | a | a | a | a | a |
| a | a | a | a | a |
| そ の 他 作 物 | | a | a | a | a | a |
| 合　　 計 | | a | a | a | a | a |

注１　目標年は，原則として５年後。

　２　「生産方式導入作物」の上段には，導入した農業生産方式に係る農作物の作付面積を記入し，下段には，当該農作物と同じ種類の農作物の作付面積の合計を記入すること。

　３　「その他作物」には，持続性の高い農業生産方式を導入しない農作物の作付面積の合計を記入すること。

（３）生産方式の内容

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 作物名 | 収　量 | 目標策定時の生産方式と導入した生産方式の内容 | 資材の使用の量・回数 |
|  | 目標策定時  kg/10a | 有機質資材施用技術 | ｔ／10a  kgN／10a  ｔ／10a  kgN／10a |
| 化学肥料低減技術 | kgN／10a  ( kgN／10a) |
| 現状  kg/10a |
| 化学農薬低減技術 | 回  ( 回) |
|  | 目標策定時  kg/10a | 有機質資材施用技術 | ｔ／10a  kgN／10a  ｔ／10a  kgN／10a |
| 化学肥料低減技術 | kgN／10a  ( kgN／10a) |
| 現状  kg/10a |
| 化学農薬低減技術 | 回  ( 回) |
|  | 目標策定時  kg/10a | 有機質資材施用技術 | ｔ／10a  kgN／10a  ｔ／10a  kgN／10a |
| 化学肥料低減技術 | kgN／10a  ( kgN／10a) |
| 現状  kg/10a |
| 化学農薬低減技術 | 回  ( 回) |

注１　「収量」については、「目標策定時」の欄に計画時の過去5年間における収量の平均を記入し、「現状」の欄に直近の収量を記入すること。

　２　「有機質資材施用技術」，「化学肥料低減技術」及び「化学農薬低減技術」は，それぞれ，法第２条第１号，第２号及び第３号に規定する技術をいう。

　３　「有機質資材施用技術」には，たい肥等の有機質資材の施用時期，施用方法，C/N比等を記入すること。また，土壌診断の実施時期についても併せて記入すること。

　４　「化学肥料低減技術」には，導入した技術の具体的な内容，施用する肥料等を記入すること。

　５　「化学農薬低減技術」には，導入した技術の具体的な内容，実施時期・実施方法等を記入すること。

　６　「資材の使用の量・回数」には，以下について記入すること。なお，括弧内には計画時の生産方式における使用の量及び回数を記入すること。

　　①　有機質資材施用技術においては，１作当たりの施用量及び窒素投入量

②　化学肥料低減技術においては，１作当たりの化学肥料由来の窒素の総投入量

③　化学農薬低減技術においては，１作当たりの農薬の使用回数の合計

（４）農業所得

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 目標策定時 | 現　　状 |
| 生産方式導入作物 | 千円 | 千円 |
| その他作物 | 千円 | 千円 |
| 合　　計 | 千円 | 千円 |

注　「農業所得」は，販売額から当該生産に要した経費を差し引いた額を記入すること。

２　１を達成するために実施した施設の設置，機械の購入その他の措置に関する事項

（１）たい肥等の利用状況

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | たい肥等有機質資材の  種類 | 自　給 | 購　入 | 備　　考 |
| 目標策定時 |  | ｔ | ｔ |  |
| 現状 |  | ｔ | ｔ |  |

注１　「たい肥等有機質資材の種類」には，有機質資材の一般的な名称（例：牛ふんおがくずたい肥）を記入すること。

　２　「備考」には，有機質資材の入手先，主な原料等を記入すること。

（２）機械・施設の整備

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 目標策定時 | | 現　　　状 | | |
| 種類・能力 | 台　数 | 種類・能力 | 台　数 | 実　施　時　期 |
|  |  |  |  |  |

注　「種類・能力」には，機械・施設の一般的な名称（例：トラクター）及びその能力の程度（馬力，植付け条数等）を記入すること

（３）資金調達状況

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 資 金 使 途 | 資金種類 | 金　　額 | 償 還 条 件 等 | 実 施 時 期 | 備　考 |
|  |  | 千円 |  |  |  |
| 合　　　計 | | 千円 |  | | |

注１　「資金使途」には，整備する機械又は施設の一般的な名称を記入すること。

　２　「資金種類」には，自己資金，制度資金（資金名を併記）その他の区分を記入すること。

　３　「金額」には，補助金等の助成措置がある場合には，括弧書で外数として記入すること。

　４　「償還条件」には，償還期間（据置期間を含む。）及び据置期間を記入すること。

　５　「実施時期」には，機械又は施設を導入した年月を記入すること。

３　その他

|  |
| --- |
|  |

注　導入指針に土壌の性質を改善するために実施することが必要な措置に関する事項が定められている　場合は，当該措置の具体的内容，実施方法等を記入すること。